



重力の1/6のワンダーランド展

オンラインレクチャー 参加要項

★ オンラインレクチャー内容

宇宙開発の今や未来の宇宙での暮らし方について、専門家の先生たちがお話をします。
ワークショップ、アイデアコンテストに参加したい人は必ず見てね！

★ 視聴方法

ギャラリーエークウッド HP (<http://www.a-quad.jp/exhibition/event.html>) の申込フォームよりお申込みください。

- ・ **申込締切：2022年3月1日（火）**
- ・ **事前申込み制**です。申込時に記入されたアドレスへ、後日視聴用 URL をお送りいたします。
※申込完了後、自動返信メールが届きますので、必ずご確認ください。
- ・ 申込時に講師への質問を受け付けます。質問をしたい講師のお名前と、質問内容をお書きください。
- ・ レクチャーは**視聴無料**です。
- ・ YouTube Live での配信を予定しています。
- ・ 後日アーカイブ動画を公開予定です。

★ レクチャー概要

日時：2022年3月5日（土） 10：00～14：30（休憩あり）

ごあいさつ	向井千秋（東京理科大学特任副学長）	10：05～10：10
プログラム1	基調講演「未来を担うみなさんへ」 的川泰宣（宇宙航空研究開発機構（JAXA）名誉教授、はまぎん こども宇宙科学館館長）	10：10～11：05
プログラム2	レクチャー「月に暮らしてみたら…い・しょく・じゅう」	
	その①「衣」：宇宙服から見る宇宙入門 新井達也（株式会社オーシャニアリング、宇宙システム部門）	11：10～11：50
	休憩	11：50～13：00
	その②「食」：宇宙時代の食を考える 菊池優太（SPACE FOODSPHERE 理事）	13：00～13：40
	その③「住」：快適な宇宙空間とは… 宮崎貴志（竹中工務店技術研究所 上席研究員）	13：45～14：25
終わりに	イベントの参加方法について	14：25～14：30

★ プロフィール・子ども達へのメッセージ

オープニング ごあいさつ



向井千秋（東京理科大学特任副学長）

講師プロフィール：1952年群馬県館林市生まれ。1985年、宇宙飛行士に選定される。1994年にスペースシャトル「コロンビア号」にアジア人初の女性宇宙飛行士として搭乗、1998年には NASA のジョン・グレン宇宙飛行士らとともにスペースシャトル「ディスカバリー号」に搭乗しライフサイエンスや宇宙医学などに関する実験を実施。2015年、東京理科大学副学長に就任、16年～特任副学長。

子ども達へのメッセージ

月に住んでみたいと思いませんか？ もう夢ではないんです。月の生活を想像してください。月の重力は地球の1/6。どんな家に住もうかなあ～？ 2階に行くのに階段はいらないかも。朝、取れたてレタスのサラダとパン。午前中、地球とのテレビ会議で満地球祝い膳のとびっきりのレシピを紹介する予定。午後、お出かけはカッコいい洋服で。夕食前に体育館で運動。体重が地球の1/6、地球とは違った運動ができるので楽しい。さあ、月での素敵な生活をデザインしてください。月に未来都市を創りましょう！

プログラム1 基調講演「未来を担うみなさんへ」



的川泰宣 (宇宙航空研究開発機構 (JAXA) 名誉教授、はまぎん こども宇宙科学館館長)

講師プロフィール: 宇宙航空研究開発機構 (JAXA) 名誉教授、はまぎん こども宇宙科学館館長、日本学術会議連携会員、国際宇宙教育会議日本代表。東京大学大学院博士課程修了。東京大学宇宙航空研究所、宇宙科学研究所教授・鹿児島宇宙空間観測所長・対外協力室長、JAXA 執行役を経て現職。工学博士。

子ども達へのメッセージ

これまで宇宙のお話をすると、星や鉱物が好きで、科学や数学が得意な、宇宙オタクの子どもたちが沢山集まって来てくれました。でも、これからは、建築や洋服のデザイン、お菓子作りやお料理が好きな子ども達が普通に宇宙に興味をもって、生活の延長線上に宇宙のことを考えてくれる時代だと思います。

プログラム2 レクチャー「月に暮らしてみたら…い・しょく・じゅう」



その①「衣」: 宇宙服から見る宇宙入門

新井達也 (株式会社オーシャニアリング、宇宙システム部門)

講師プロフィール: 東京大学工学部航空宇宙工学科 (学士、修士)、米国マサチューセッツ工科大学航空宇宙工学科 (博士) を卒業後、医療機器メーカー勤務を経て、現在オーシャニアリング社の宇宙システム部門に勤務。専門は生命維持装置。

子ども達へのメッセージ

皆さんは新しい宇宙服を作ってみたいですか? 月や火星で着て、何をしてみたいですか? 宇宙服は宇宙飛行士の命を預かる重要な服であり、宇宙船でもあります。それゆえ、安全かつ機能する宇宙服を開発、試験、製造するには、医学、機械、電子、化学など、いろいろな分野の知識が必要です。宇宙服を通じて宇宙開発や人間の健康、医療、工学、環境問題などにも興味を持ってもらえたら嬉しいです。



その②「食」: 宇宙時代の食を考える

菊池優太 (SPACE FOODSPHERE 理事)

講師プロフィール: 人間科学分野の大学院修了後、JAXA 入社。主に非宇宙系企業の宇宙ビジネス参入に向けた新規事業や異分野テクノロジーとの連携企画に加え、共創型プログラム「宇宙イノベーションパートナーシップ (J-SPARC)」の立ち上げ・制度設計に従事。現在は、J-SPARC プロデューサーとして、主に宇宙旅行・衣食住ビジネス、コンテンツ・エンタメビジネス等に関する民間企業等との共創活動を担当。地球と宇宙に共通する食の課題解決に取り組む一般社団法人 SPACE FOODSPHERE では理事を務める。

子ども達へのメッセージ

いよいよ始まる宇宙旅行、月に人類が再び行く計画も発表されていますが、将来は宇宙に暮らす時代がやってこようとしています。そうなるのが大事なのが衣食住。私は、宇宙に人が暮らす時代の準備の一つとして、さまざまな会社や研究者の方と協力して、2040年の月面での食卓を考えています。また、全国の学校や科学館などで宇宙に関する授業を行っていて、「きくにい」という愛称 (自称?) で宇宙イベントや番組 MC なども行っています。夢は、「月面オリンピックを実現し、その実況をすること」です。



その③「住」: 快適な宇宙空間とは…

宮崎貴志 (竹中工務店技術研究所 上席研究員)

講師プロフィール: 大学卒業後、(株) 竹中工務店に入社する。専門は機械工学で、技術研究所の研究員として、長年の間、研究開発に携わってきた。1989年には、宇宙研究チームに参加し、活動を開始、1990年には、海外の宇宙教育機関である International Space University (@Toronto) で、宇宙全般について研修を受ける。現在は、快適な宇宙居住空間の研究に力を入れている。

子ども達へのメッセージ

宇宙で快適に過ごすことを想像してみませんか? 衣・食・住が充実すれば、地球と同様な暮らしができると考えます。今までは、選ばれた人たちが宇宙へ行っていましたが、近い将来、誰もが宇宙へ行き、月あるいは火星に住む時代がやってきます。その時に、我慢して暮らすのではなく、快適で楽しい時間が過ごせるようになればいいなあ、そのように考えています。皆さんの「ワクワクする発想」は、それを可能にするはずですよ。